



来週は参観日があります。1学期できなかった参観日ですが、今回は、コロナ対策で、密をさけるために、2日にまたがって行いますのよろしくお願いたします。

「きまり」と「自由」の話

～2学期2週間目の全校朝会、写真で振り返りながら～

2学期が始まって2週間が経ちました。子ども達の様子を見ていて、休み明けに関わらず落ち着いた生活ができている部分が多いと感じます。よいところを続け、足りないところを改めていこうという気持ちを持たせたいと思いました。全校朝会での話をご紹介します。

今日は、「きまりと自由」ということについてお話します。



①

写真① この写真は夏休みの作品展の写真です。友だちの作品を見るのは楽しいです。「へー、こんな作り方があるんだー。」と参考になることがたくさんあるからです。また、「〇〇くんは、上手につくっているな」とその友だちの得意技を新発見するのも楽しいことです。他の学年の作品も自由に見ることができま

す。これが、もし、「作品は先生と一緒になければ見てはいけません。」とか「作品を置く場所には鍵をかけますから自由に(勝手に)見てはいけません。」とい

う「きまり」ができたらどうでしょう。とても、いやで不自由ですね。

では、種市小学校では、どうして、自由に見ることができるのか。それは、「自由に見せても、壊す人がいないのではないか!」と先生方が考えたからです。前は、壊れることもありました。でも、「今度は大丈夫ではないか!」と期待したのです。

写真② これは、パソコン室の前にきれいにならべられたズックです。何年生でしょうか? 気持ちがいいです。通り過ぎる人も穏やかで落ち着いた気持ちになります。ここを走る人はいないでしょう。「きまり」としてではなくて、「あたり前」に自分から進んでできるようになっているのです。『マナー・礼儀作法』として身につけていると言ってもいいでしょう。

②



写真③ 校報でも紹介した、休み時間に走って戻ってくる様子です。もしも授業に遅れるようなら、「もっと早く、遊びをやめること」という「きまり」を増やさなければならなくなります。でも、みなさんが、こうして急いで戻ってきて授業に間に合うので、そんな「きまり」は必要ないですね。

③



「きまり」というのは、みんなが困らないために作るものです。人に迷惑をかけないために「きまり」があります。「きまり」があると窮屈な感じがするかもしれませんが、みんなのためにあるのです。ですから、世の中は、きまりがあるところからスタートします。(次頁へ)

でも、こうしてみなさんのように、

- ・みんながきまりを当たり前を守るようになったら
- ・きまりがなくても人に迷惑をかけない「よい行動」が増えるようになったら

もう「きまり」はどんどんいらなくなって減らすことができるのです。「自分で考えて行動してよいです」と言ってもらえることが増えていくのです。それを「自由」というのです。“任せてもらえる”ということでもあります。

きまりを守る

きまりがなくてもよい行動がふえる

- ・きまりがへって
- ・「自分で考えて行動してよいこと」がふえる

写真④ 最後にこれを見て下さい。これは、この前、春樹先生が見つくてとてもがっかりしておられたところの写真です。何のことかわかりますか。まだまだ、生活の中で気を付けるところがありそうですね。

みんなで、きまりがなくても「自分で考えて行動してよいです」と言ってもらえることを増やしていきましょう。そしたら、ますますよい学校になります。



夏休み後2週間を経過して 縦割り掃除 再開

子ども達が元気に集まったものの、2学期のはじめはいろいろ活動を慎重に進めてきました。始業式は行いましたが、それ以外の全校が集まる活動や多数の学年と一緒に活動することはできるだけ控えてきました。陸上の練習はやむを得ず行うこととしましたが、縦割りの掃除や全校遊びも控えてきました。

そして、子ども達の健康観察結果を見守って2週間、徐々に活動を広げます。今週から、いよいよ、縦割り掃除を再開しました。全校朝会も行いました。地域に出での学習も始めます。これからも、子ども達の健康状況やコロナ感染の広がり具合を見ながら慎重に、そして、活動を選びながら必要なものは行うということを進めたいと考えています。



13年間の「磯そうじ」に 励ましをいただきました

「海上保安業務協力功労賞」 第二管区海上保安本部長から

「『小さな親切』実行章」 公益社団法人「小さな親切」運動本部から



今の子ども達に加え、これまでの先輩達が行ってきたことに対するの賞だと思えます。13年間続いてきたことには、その時々子ども達が引き継いでくれたからこそと思います。また、平内小学校でも浜や駅舎の掃除を長年続けていたと、お聞きしました。その活動を見て育った子ども達も一緒になって、活動の精神が代々引き継がれてきたのだと思います。関わってこられたみなさんでいただいた賞です。みなさんで喜び合いたいと思います。

(朝、賞状を飾っていたら、男の子がつぶやきました。「僕も一回でいいからこの縁がある賞状もってみたいな。」と。「きっともらえると思うよ。」という「ありがとうございます。」とにっこりして校庭に飛び出して行きました。)